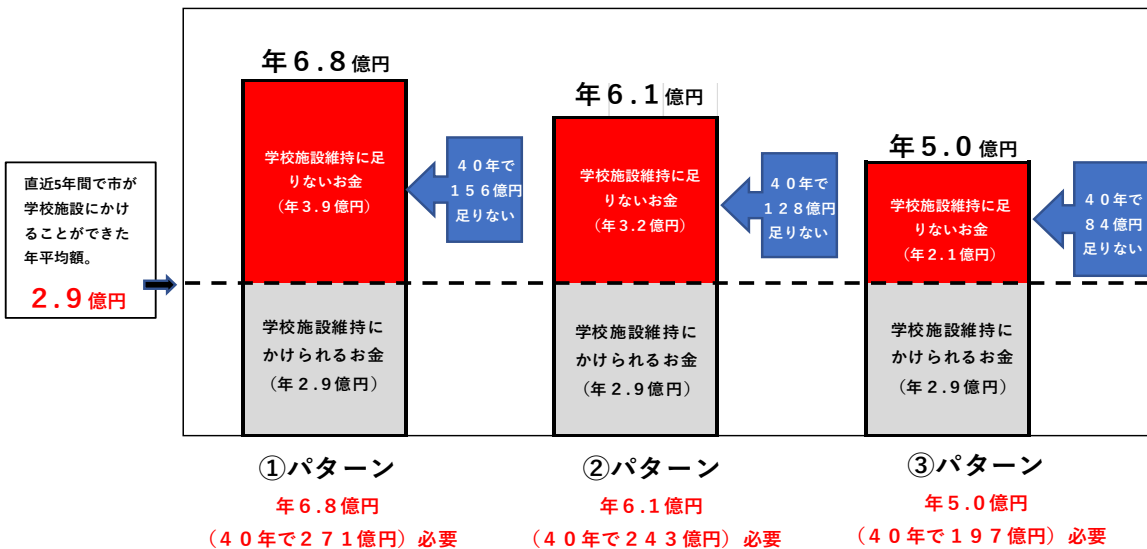


■これからの南陽市の公共施設のあり方の検討について

<p>南陽市の全ての公共施設等の長寿命化について (「南陽市公共施設等総合管理計画」(R4.3改訂))</p>	<p>◆公共施設の建築年数 →建築30年以上の建物は近いうちに大規模な改修や更新が必要。 (R4現在で約55%の建物が建築30年以上)</p> <p>◆すべての公共施設等の維持に必要な将来のお金 →今後40年先も今と同じ量の建物や道路などを維持するためには、毎年30.5億円(40年間で約1,221億円)のお金が必要。 →このうち市がかけられるお金は年間13.2億円(直近5年間の平均)。 このままでは市のお金が毎年約17.3億円(40年間で約692億円)ずつ足りない。</p> <p>◆これからの公共施設等のあり方の目標 →将来の人口に合わせて不便にならないようにしながら、R28までの約30年間で公共施設全体の量(延床面積)を20%減らす。</p> <p>◆学校施設の現状 →建築30年以上の施設が約7割と多い一方で、すべての施設が「耐震補強」実施済。 →児童生徒の一人当たり必要床面積が全国平均と比べて大きい。 (小学校2.01倍、中学校1.96倍 *2019年「小中学校校舎等必要面積全国平均」)</p>
--	---

<p>小中学校の長寿命化について (「南陽市学校施設長寿命化計画」R2策定)</p>	<p>◆今の学校施設の維持に必要な将来のお金 →今後40年先も今の学校施設を維持するために必要なお金の3つのシミュレーション</p> <p>①パターン すべての学校を建て替えて維持する場合、年平均6.8億円(40年間で約271億円)のお金が必要。</p> <p>②パターン すべての学校を「長寿命化」(壊れてから直すのではなく早めの計画的な改修を行うことであるべき施設を長持ちさせること)して維持する場合、年平均6.1億円(40年間で約243億円)のお金が必要。</p> <p>③パターン 「長寿命化」に加えて今の学校施設全体の量を20%減らした場合、年平均5.0億円(40年間で約197億円)のお金が必要。 →ただし、市が直近5年間で学校施設にかけられた年平均額は2.9億円。このままでは①②③のどのパターンでも毎年約2.1億円~3.9億円のお金が足りない。</p>
---	--

学校施設を維持するために必要な年平均額 3パターン比較



<p>公共施設の維持管理に必要な市のお金の確保について 「南陽市公共施設維持管理基金」(H29.4設置)</p>	<p>◆公共施設の維持に必要な将来のお金への備え →公共施設を一定間隔で維持するために、市が用意しなければいけないお金は毎年約3億3千万円。また、それ以外にも大きな更新や改修など特別にお金が必要になる場合もあるため、市では公共施設の維持管理のために使うお金を基金として計画的に積み立てを行い、将来必要なお金に備えている。 →基金以外にも、どんな目的の施設を整備するかにより、国のお金が使えたり借金ができる場合もある。</p>
---	---